

## 第 11 回 地震・地震動検討会 議事録(案)

1. 開催日時：平成 20 年 11 月 18 日(火) 10:00 ~ 12:00

2. 開催場所：(社)電気倶楽部 A 会議室

3. 出席者：(順不同, 敬称略)

委員：工藤主査(日本大学教授), 久田副主査(工学院大学教授)久野幹事・渡部(中部電力), 佐伯(北海道電力), 石川(東北電力), 高橋(東京電力), 小笹(北陸電力), 松崎(四国電力), 仲田(電源開発), 川里(日本原子力発電), 佐藤(電中研) (計 12 名)

代理出席：岡崎(関西電力・伏見代理) (計 1 名)

欠席委員：阿比留(中国電力), 赤司(九州電力), 壇(清水建設), 武村(鹿島建設) (計 4 名)

事務局：平野(日本電気協会) (計 1 名)

4. 配布資料

資料 No.11-1 第 10 回 地震・地震動検討会議事録(案)

資料 No.11-2 JEAG4601「原子力発電所耐震設計技術指針」(改定案)の公衆審査意見対応について(案)

資料 No.11-3 JEAG4601「原子力発電所耐震設計技術指針」(改定案)の公衆審査意見対応(案)に対する修正案

参考資料 1 耐震設計分科会 地震・地震動検討会委員名簿

参考資料 2 第 30 回 原子力規格委員会議事録(案)

参考資料 3 JEAG4601「原子力発電所耐震設計技術指針」(改定案)

参考資料 4 国内外の内陸地震の震源近傍記録に対する耐専スペクトルの適用性検討について

5. 議事

(1) 代理出席者及び会議定足数の確認

事務局より, 本日の代理出席者 1 名の紹介があり, 工藤主査によって承認された。また, 代理出席を含む出席委員は 13 名であり, 規約上, 決議に際して求められる委員総数の 2 / 3 以上の出席(12 名以上)を満たしていることを確認した。

(2) 前回議事録(案)の確認および第 30 回原子力規格委員会議事紹介

事務局より, 資料 No11-1 に基づき, 第 10 回地震・地震動検討会議事録(案)が読

み上げられ、下記修正することを前提として出席者全員の賛成で承認された。

- ・(3)の「原則、意見交換するという立場ではない。」を「原則、地質・地盤に関する安全審査の手引き検討委員会と意見交換するという立場ではない。」に修正する。  
また、事務局より、参考資料2に基づき、原子力規格委員会において「委員会規約」「分科会規約」「運営規約細則」等が改定されたことが紹介された。

### (3) JEAG4601「原子力発電所耐震設計技術指針」(改定案)に関する公衆審査における意見対応について

久野幹事、渡部委員および高橋委員より、資料 No11-2,-3 および参考資料4により公衆審査における意見に対する対応(案)および修正(案)の説明があった。意見 No1 の対応(案)の一部を修正するが、修正内容は主査・幹事に一任することを前提として出席者全員の賛成で承認された。

主な意見を以下に示す。

#### 【意見 No1 について】

- ・参考資料4の図における耐専スペクトルと耐専内陸補正との関係では、内陸地震の場合内陸補正を行った方が観測結果とほぼマッチしていると理解してよいか。  
その通りである。
- ・参考資料4のp6のVsとは地盤のVsか。これは補正を行うのか。  
そうです。はぎとり等下準備をしたうえで地盤の記録としている。
- ・参考資料4のp10,P11の適用性検討結果のうち観測記録と耐専スペクトルの応答スペクトルの地震動レベルが合っていない一部の周期帯に関して、何らかの分析を行っているのか。  
JEAG4601の1.4「基準地震動Ssの策定」において不確かさを考慮するようにしている。
- ・「適用範囲が明確でない」に対しては、断層モデルの内容を加えた内容にすべきではないか。  
「耐震審査指針」に断層モデルを用いた適用性検討を加えた内容を追加する。
- ・資料11-3の附図1.1-1の「回帰に用いた記録」は「回帰分析に用いた記録」と修正した方がよい。  
修正する。

#### 【意見 No2 について】

- ・「本文」「附属書」「解説」の位置づけを明確にするため、先行発刊の「基準地震動策定・地質調査編」に添付している「基準地震動策定・地質調査編の構成」を当指針にも添付すべきではないか。  
添付する方向で調整を行う。

### (4) 次回検討会の予定

開催日時は別途調整することとした。

以上